

巻 頭 言

九州地区大学体育連合会長 齊藤篤司

大会のメインテーマ「大学体育の質保証と評価」も3年目を迎えた。齊藤宣言を行った手前、平成28年度も九州地区大学体育連合のメンバーで科研費(基盤B)を申請しましたが、2連敗を期しました。ただ、申請書を書いていると、どうしても大学体育の目的は何か、ということに触れないで考えることができず、思考が停滞してしまうことが多々ありました。どうしてなのでしょう。もちろん、大綱化以降、教養教育における大学体育の目的はその大学のポリシーに沿ったものであるべきで、大学個々により異なってしかるべきです。しかし、大学を卒業してきた学生を評価するのは大学ではなく、体育教員でもなく、社会なのではないでしょうか。

『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』のドラッカーが、『創造する経営者』(1964年)の中で、こんなことを言っています。「成果と資源は企業の内部にはない。いずれも外部にある。」「成果は、内部にいる者や、企業の支配下にある者によって決められるのではない。市場経済における顧客、統制経済における政府当局といった外部の誰かによって決められる。企業の活動が、成果を生むか無駄に終わるかを左右するのは、企業の外部にいる者である」。ドラッカーの言っていること本当にわかっているのか、といわれると、わかりません。しかし、大学体育がいかにもその大学のポリシーに沿って、目的をつくり、その目的を達成すべく、授業が行われたとしても、評価するのは大学の中にはないのではないかと言うことです。

今日の大学体育では、コミュニケーション能力や社会性、ストレス対処能力の低下という大学や社会の要請を踏まえたカリキュラム改変も行われようとしています。すなわち、体育教育を通して、他者とコミュニケーションをとる力や社会で必要とされる規範意識、あるいは、さまざまなストレスに打ち克つ力などを身につけさせようというものです。そこで評価される能力としての様々なスキルに対し、大学体育がどう寄与するのか、および、その評価方法について検証し、大学および社会に貢献する体育授業の構築を目指すことが求められるべきです。そして、大学の体育教育における目的と評価を体育教育の内部で完結させるのではなく、他者評価、つまり、大学に対し、さらには社会に対しどのようなベネフィットをもたらすかに重きを置くことにより、教育方法の質的転換をはかることも重要となります。教育の成果として、21世紀型市民の育成が求められる中、係る能力を教育し、他者評価することが大学の学修成果の可視化(「これからの大学教育等の在り方について(第三次提言)」, 教育再生実行会議, 2013)につながるでしょう。体育教育における身体活動には教養として求められる規範と倫理、感性と美意識、主体的に行動する力などが潜在し、身体感覚として身に付けられる「修養的教養」は思考や行動の規範となり、「個人と社会」「自己と他者」の相互関係と個人としての「自律性」を育成する上で、基盤を形成すると考えられます。

批判を恐れずに言えば、大学体育は、体育をアイデンティティとしながら、ともすると専門領域の研究をすることで「体育教育で何が獲得できるか」という本質的問題の解決から逃げてきたのではないのでしょうか。大学体育教育における目的と評価は体育教育の内部で完結させるのではなく、他者評価、つまり、大学に対し、さらには社会に対しどのようなベネフィットをもたらすかを考えた教育へと質的転換をはからなければならないのではないかと考えます。

目 次

巻 頭 言	齊藤 篤司 (九州地区大学体育連合会長)	1	
I. 教育研究論文			
原著論文			
大学への帰属意識と大学適応感との関連：部活動・サークルの所属からの検討	須崎 康臣, 齊藤 篤司, 杉山 佳生 (九州大学大学院人間環境学研究院)	5	
II. 大学体育連合関連情報			
1. 九州地区大学体育連合・九州体育・スポーツ学会合同企画報告			
大学体育におけるコーチングとティーチング — バスケットボールを教材にして —	八板 昭仁 (九州共立大学) 柿山 哲治 (福岡大学) 齊藤 篤司 (九州地区大学体育連合) 則元 志郎 (九州体育・スポーツ学会)	15	
III. 体育・スポーツ関連情報			
1. 海外だより			
韓国の大学体育.....	鄭 英美 (九州共立大学)	19	
IV. 平成27年度体育・スポーツ・健康に関する教育研究会議			
1. 研修会プログラム.....			23
2. 特別講演			
今後の全国大学体育連合事業について ～スポーツ庁・Tokyo2020組織委員会・ラグビーW杯2019組織委員会等との連携など～	師岡 文男 ((公社)全国大学体育連合・上智大学)	24	
3. シンポジウム「大学体育の外部(他者)評価の可能性と方法」			
コーディネーター 齊藤 篤司 (九州大学)			
「大学体育授業の成績評価についての一事例」.....	中山 正剛 (別府大学)	27	
「大学体育授業における自己評価と他者評価の成果」	則元 志郎 (熊本大学) 坂本 一真 (熊本大学大学院)	29	
4. 研究発表			
体育実技における高大接続の課題と授業展開 — ベースボール型履修の初年次学生に対する実践事例 —	北 徹朗 (中央大学保健体育研究所客員研究員/武蔵野美術大学) 森 正明 (中央大学)	31	
大学1年生が体育・スポーツ授業に求める楽しさ — 高田4原則から —	中野 裕史 (中村学園大学)	33	
学生生活 QOL 向上の因果モデルの構築と運動・スポーツ活動の役割	橋本 公雄 (熊本学園大学)	35	

体育授業における初年次学生の「自己成長促進モデル」の構築に向けた検討 — 野外種目を対象としたパイロットスタディ —	西田 順一 (群馬大学)	38
ボール運動教材における自己評価と他者評価の成果	坂本 一真 (熊本大学大学院) 則元 志郎 (熊本大学)	42
大学生の授業適応を高めるための授業環境の設定	阪田 俊輔 (九州大学大学院) 杉山 佳生 (九州大学)	45
九州共立大学スポーツ学会プロジェクト助成の一事例 — カンボジア・スタディツアーについて —	山口 恭平 (九州共立大学)	48
部活動・サークル所属における大学への帰属意識と大学適応感との関連	須崎 康臣 (九州大学大学院人間環境学府) 杉山 佳生 (九州大学大学院人間環境学研究院) 斉藤 篤司 (九州大学大学院人間環境学研究院)	51

V. 事務局報告

平成27年度 九州地区大学体育連合事業報告	55
平成27年度 第1回理事会議事録	56
平成27年度 第2回理事会議事録	57
平成27年度 第3回理事会議事録	58
平成27年度 総会議事録	60
平成27年度 決算報告	62
平成28年度 事業計画	63
九州地区大学体育連合研究助成規定・施行細則	64
九州地区大学体育連合規約	65
平成27・28年度 九州地区大学体育連合 役員名簿	66
平成27年度 九州地区大学体育連合 加盟大学および個人	67
平成27年度 賛助会員一覧	68
編集後記	69